

丹波焼の里 ミュゼシター

発行：やきものの里プロデュース倶楽部

2018
autumn
winter
vol.
24



丹波の手仕事 匠の技 10

陶芳窯 「鎬 (しのぎ)」 清水 忠義氏
美好氏

兵庫県芸術奨励賞受賞者 榎本 佳子氏
兵庫陶芸美術館のシンボル「共存」

インタビュー

河井寛次郎記念館 学芸員 鷲 珠江氏

陶芳窯 工房 清水 美好氏

丹波の手仕事

匠の技 10

陶芳窯「鎬 (しのぎ)」 清水 忠義氏・美好氏

陶芳窯は、忠義氏が1973年に創業した窯元で、今では、ご子息の美好氏が二代目として主として陶をされています。

忠義氏は幼くして戦争で父を亡くしたため、本家筋の丸八窯で仕事をすることになり、陶芸の道に入りしました。当時、民藝運動

に、奥田康博氏に師事し、技能を磨き、数多くの展覧会で入選を重ねました。

1978年、丹波立杭焼が日本伝統的工芸品に指定され、その伝統工芸士の一期生の一人として認定されました。

陶芳窯では、イツチン、鎬、墨流し等で模様付けした生活食器を多く作っていますが、今回は、美好氏に鎬の技法について伺いました。工房では、美好氏の手

がリズムカルに動き、器に鋭い稜線が次々に現れていきます。鎬とは、成形した素地を削って模様を施す、装飾技法のことです。

均等な幅と鋭い稜線の鎬文を施すには、素地の適度な硬さと滑らかな表面、そして手にあった道具の全てが揃うことが必要です。

成形した器を適度に乾燥させ鎬を施しますが、土の硬さの違いで削りが変わるので乾燥の具合が大事です。素地の表面の状態も大切で表面に口ク口目が有るとスリットと削れません。口ク口目が有ると削った跡に乱れが出てしまいますが、人によっては、それも味だと言って、そのまま削っています。美好氏の場合、手作り型のように鎬を入れることを理想としていますので、鎬を施す作品は、口ク口目を引くときから口ク口目を付けないように作ったり、鎬を施す前に口ク口目がなくなる程度に表面を薄く削ったりします。道具は自分の手に合うように調整したものを使い、ひとつひとつ丁寧に鎬を入れていきます。

鎬は、手間のかかる仕事で多くの窯元で奥様も同じように作業をされています。美好氏のお母様も大ベテランで忠義氏も「わしよりうまい」と、その出来栄を絶賛しています。

美好氏は、「技は見て盗む」を絵に描いたように、父、忠義氏の仕事ぶりを見て技能を磨いてきました。作陶技術以外にも、「見た感じも触った感じも暖かい、手軽に使ってもらえるものを作りたい」といった、民藝の心も受け継がれたようです。「自分が一生懸命作ったものが、使ってもらえたらうれしいな」と言われた言葉が印象的でした。



清水忠義 鎬手大皿



陶芳窯 清水忠義・美好

〒669-2135

兵庫県篠山市今田町上立杭447-1

電話 079-597-2072

文・植田正実 写真・迫田隆

県政150周年記念展・出展作家紹介
兵庫県芸術奨励賞・受賞者

榎本佳子氏

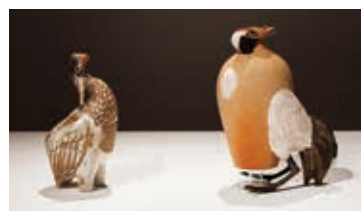
県政150周年記念事業として、兵庫陶芸美術館では「ひょうごのやきもの150年」技術・匠からアート・個性へ」が開催され、兵庫県ゆかりの作家が紹介されました。兵庫発の明治期の輸出陶器から始まり今日の丹波焼の伝統工芸士の作品「兵庫県文化賞」「兵庫県芸術奨励賞」の受賞者作品まで多数の展示品の中から、現代作家の「アート・個性」の部分に着目してみたいと思います。

「兵庫県芸術奨励賞」は、芸術の分野における創作活動ですぐれた業績をあげており、かつ将来一層の活躍が期待される新進・中堅の芸術家を表彰する賞で、その分野は絵画、彫刻、工芸、陶芸などの美術から、音楽や舞踊、落語まで多岐にわたります。「陶芸」の受賞者は前身の「兵庫県新進芸術家活動奨励金交付者」とあわせ10名で、その中から今回は兵庫陶芸美術館にもゆかりのある榎本佳子氏をご紹介します。

榎本氏は兵庫陶芸美術館と縁が深く2012年のテーマ展「Ceramic World | 陶による世界の広がり」では、丹波・立鶴文徳利(江戸時代)を独自の形でうつした作品を出展されています。(写真①)その独特の世界をご記憶されている方もおられるのではないのでしょうか。



丹波・立鶴文徳利(一対) 江戸時代後期
兵庫陶芸美術館蔵(田中寛コレクション)
兵庫県指定文化財



榎本佳子① 鶴/徳利/鶴
2011年 個人蔵 写真:小笠原翔

半年のヨーロッパ滞在を経てさらに進化した榎本ワールドは今も進化し続けているようです。150周年記念事業でも「飛び出す」といった表現がまさしくびつたりの作品(写真③)が展示されました。展示会をご覧になった方も、私たちが通常イメージする陶芸とは違う世界に驚きを感じられたことでしょうか。2次元の絵がうきあがる、用途を備えた実用品から用途をもたない装飾品への移行。まさしく今回のサブタイトル「技・匠からアート・個性へ」にふさわしい作品だったのではないのでしょうか。また今年8月に兵庫陶芸美術館で開催された子育て世代陶芸ワークショップでは、榎本さんを講師に迎え、榎本ワールドの一端を体験していただきました。榎本さん発信の新しい陶芸の楽しみ方は、親から子供へ、兵庫から世界へ広がりを生みそうな予感。さらに進化した榎本ワールドに再会できる日を楽しみに待ちたいと思います。

榎本さんは京都市立芸術大学大学院修了後、神戸芸術工科大学・陶芸コースで実習助手を務める傍ら、2011年には兵庫県立美術館で「美術館で野点」こどものためのワークショップ「やきものを作ろう!」、2012年には兵庫陶芸美術館のワークショップ「抹茶碗を作ろう」で指導にあたられるなど県内での活動に加え、米国や英国にも出向き、知見を広めておられます。



榎本佳子② ヘビ/梅瓶
2013年
ヴィクトリア&アルバート博物館蔵



榎本佳子③ 平等院鳳凰堂/皿
2016年 兵庫陶芸美術館蔵
写真: KENSE

兵庫県芸術奨励賞受賞者(陶芸)

受賞年度	氏名	分野
(平成3年度)*	西端 正(末晴窯)	美術 陶芸
(平成4年度)*	市野 年成(延年窯)	美術 陶芸
平成6年度	市野 元和(省三窯)	美術 陶芸
平成12年度	市野 雅彦(大雅工房)	美術 陶芸
平成13年度	重松あゆみ	美術 陶芸
平成14年度	清水 圭一(かねと窯)	美術 陶芸
平成17年度	市野 良行(寿庵)	美術 陶芸
平成20年度	市野 哲次(市野悟窯)	美術 陶芸
平成24年度	榎本 佳子	美術 陶芸
平成29年度	清水 剛(俊彦窯)	美術 陶芸

歴代兵庫県芸術奨励賞受賞者(平成5年~29年度)
注*平成3年度、平成4年度は、芸術奨励賞の前身として設けられた「兵庫県新進芸術家活動奨励金交付者」

バーナード・リーチ(1887-1979)
英国の陶芸家で、日本を何度も訪ね民藝運動にも深く関わった。
20世紀ロンドンで拠点として活躍したウィーン出身の女流陶芸家。

(増田 知子)

「共存」

兵庫陶芸美術館のシンボル

兵庫陶芸美術館敷地入口で来館者を先ず引きつけるのが、地面からまっすぐに伸びる真っ赤なモニュメント。美術館開館に際し、ランドマークとなるよう初代館長が、数多くの野外彫刻やモニュメントを手がける著名彫刻家「清水九兵衛」氏に依頼して制作されたもの。アルミニウムを素材に鮮やかな朱色の彩られた「共存」です。直線と曲線が巧みに組み合わせられ、豊かな自然との調和、地域との連携を表現しています。自然豊かな丹波焼の里の山あいには、地域全体をミュージアムとして捉え地域と密接な連携を図るこの美術館のイメージにぴったりのモニュメントです。兵庫陶芸美術館を訪れた際には、是非ゆっくりとご覧ください。



清水九兵衛 (七代・清水六兵衛)

彫刻家、陶芸家。(1922-2006)
名古屋高等工業学校(現・名古屋工業大学)で建築を学び、第二次世界大戦を経て東京美術学校(現・東京藝術大学)工芸科鋳金部に入学、在学中の1951年に江戸時代から続く京焼の清水六兵衛(六代)の養子となり陶芸の道に進む一方、1958年に東京藝術大学専攻科に入学し彫刻を学び、1968年彫刻を発表するにあたり初めて九兵衛を名乗る。1981年清水六兵衛(七代)を襲名、陶芸制作、彫刻制作の両方を継続。1990年には紫綬褒章を受章されている。

源泉かけ流しの日帰り天然温泉



緑に囲まれた広い露天風呂で
ゆったり、のんびり
農産物直売所、レストランも併設、
1日ゆっくりお過ごしください。



◆ 入浴料 ◆
大人 700 円
(12歳以上)
小人 300 円
(6~11歳)

営業時間
AM10:00 ~ PM10:00
(PM9:30 受付終了)
定休日 毎週火曜日(祝日は営業)

〒669-2153
兵庫県篠山市今田町今田新田 21-10
TEL.079-590-3377

<http://yume-konda.com/>





interview

— 没後 50 年 —

河井寛次郎展

過去が咲いてゐる今 未来の蕾で一杯な今

河井寛次郎記念館 学芸員 鷺 珠江 氏

河井寛次郎といえば、民衆の工芸に魅せられた民藝運動や、奔放で自由な力強い造形美で知られています。日本を代表する陶芸家である河井寛次郎の没後50年を記念する展覧会がこの度兵庫陶芸美術館で開催されます。展覧会の監修者であり、河井寛次郎氏のお孫さんにあたられる鷺珠江様に、京都市東山区五条坂にあります河井寛次郎の旧宅である「河井寛次郎記念館」でお話を伺いました。

今回の展覧会の開催に向けて、鷺様からこういったところを見てほしいとかがありましたら、お話しただけですでしょうか。

河井が亡くなって半世紀を記念する展覧会が開催され、とてもありがたいことです。いつも私が基本的に思っていることは、河井が残した陶器や作品よりもむしろ、河井本人の人間性についてお伝えしたいなあということですね。目に見えないものをいかに皆さんにお伝えするかという意味では「言葉」が一番伝わりやすいので、本人の言葉からその内面や精神性などを感じていただけたらと思っています。

今回の展覧会は、大きく二つのテーマに分けました。一つ目は「河井が生み出したもの」で全体の7割くらいを構成しています。それを、「土(陶器)」「木彫・デザイン」「言葉」の三つに分けて紹介しています。もう一つは「河井の愛したもの」。河井が学んだものや、収集品、遺愛品、資料などで紹介しています。河井は全国のいろいろなやきものを参考にしていますが、今回は丹波焼に見られる技法を参考にしたのではないかとと思われる作品もご紹介しています。また、どういったかということを集品に、さらに実際に使っていた眼鏡や自らデザインしたキセルなどの遺愛品も展示しました。あとは資料として、覚え書きノートやスケッチ、読んでいた本などですが、読書家だった寛次郎の愛読書を、今回は8冊選んで並べています。あと、母は河井

の一人娘で短歌を嗜みましたが、寛次郎亡き後、父への追悼歌を残していました。そういった思い出のものも見ていただけます。また、愛したものの中にはどうしても会場に運んで来られないものがあります。庭にある丸い石も大好きでしたので、丸い石に寄り添っている写真で見ていただくようにしています。

生み出した作品群と愛していた品々での今回の構成において、繰り返しになりますが、寛次郎の见えない方、河井の内面が、少しでも皆様にお伝えできればなと思っています。



今回、山口大学の所蔵品が出品されることお聞きしたのですが、

今回の展覧会の目玉の一つと言えると思います。山口大学に大正10年と12年の二回に分けて、河井の初期作品が収集されていることが数年前に判明しました。河井は島根県の出身で、山口県とは縁も所縁もないので大変驚きました。

山口大学―当時は山口高等商業学校ですが、その学校の「商品学」の先生方が、日本中および海外のいろいろなものを教材として購入されていたこと、河井の作品も含まれていたということです。河井の作品は19点にも及びますが、今回はその中でも非常に珍しい9点を拝借しています。大学の台帳を見ると、購入されているものと、河井が差し上げているものとの両方があり、それらはすべて大正時代の初期作品です。

どのようなきっかけで山口大学に河井先生の作品があることが分かったのですか。

山口大学にはこれらの資料を展示しておられる立派な施設がありますが、それとは別で、学生さんに学校にあるこれらの品々をお見せになる「宝山の一角」という展示をされました。チラシにこの連絡が当館にありました。チラシに掲載された河井作品の写真使用の許可申請でしたが、それが初期のびっくりするほど珍しい作品だったので、「えっ!」っていうことで、実際に見て伺いました。

没後50年展ではどんな展示になっていますか。

記念館所蔵のものが中心ですが、その他、いろいろな美術館や個人の方のご協力も仰いでいます。また、陶器だけでなく、木彫や書など・・・それらは本人の生前、販売をしませんでしたのですべてが当館所蔵です。また本人の設計した「家」は持っていけませんので、デザインをした家具・調度類などを見ていただいています。つまり、河井のトータルな仕事、全体の河井の残したものを見ていただきたく、陶芸家以外の側面も含めて、美の全体像をつかんでいただければと願っています。

鷺様からすると「おじいさま」なんです。どんな感じでしたか。

私が一番小さい孫だったんですが、残念ながら私が9歳のときに亡くなりました。祖父の部分はもちろんあるのですが、記念館になって学芸員として勤務するようになってからは作家としての河井寛次郎という部分で接していることも多く、私の中では、祖父と作家河井が半分半分の感じです。「暮しが仕事、仕事が暮し」という言葉を残しているように、生き方と仕事とが分離されずに一体化していましたので、祖父と作家河井としての違和感やズレもありません。

素晴らしい言葉をたくさん残している



ますが、決して聖人君子みたいな遠い感じでもなく、親しみのある人です。ただ普通の人よりは少し天に近いような精神性の持ち主だったような気はしています。河井本人はすごく明確な意思を持ち、揺るぎのない人ですが、そのことで周りの者が嫌な思いをしたり、窮屈だったというところは全くないです。自己には厳しいですが、他には優しい人でした。書生さん(お弟子さん)たちは、先生のことを思うと、すっと姿勢が伸びる感覚がある、ってよく言われてましたね。

河井先生のお弟子さんという方は何人もおられたんでしょうか。

住み込みでおられたのは5人ほどでしょうか。戦後丹波で仕事をされた方には奥田康博さんや、生田和孝さんがおられますね。

先日、兵庫陶芸美術館で開催されていた生田和孝展の座談会が出たお話を、生田和孝さんが仕事場に河井先生の「自警」の詩を掲げて毎日仕事に取り組んでおられ、弟子の方々に事あるごとに「自警」のお話をされていたそうです。

戦後、奥田さんや生田さんが丹波の地で焼き物づくりをされて、現代でもその種が育つてこの地に河井の「言葉」が少しでも残っていることに感慨深いものがあります。河井本人もきつと心から喜んでいることでしょう。

兵庫陶芸美術館 展覧会の見どころ

4月以降の閉館時間が変更になりました。
[開館時間] 午前10時～午後6時

●特別展のご案内

県政150周年記念事業

「没後50年 河井寛次郎展 -過去が咲いてる今、未来の蕾で一杯な今-」

平成30年9月22日(土)～12月9日(日) (68日間)

島根県安来市に生まれた河井寛次郎(1890-1966)は、1921年の初個展以来、高度な技術を駆使した中国や朝鮮の古陶磁の手法に基づいた作品が好評を博しますが、1924年、柳宗悦(1889-1961)と親交を結ぶと、それまでの作風を一変し、実用を重んじた力強い作品を生み出し、柳や濱田庄司とともに民藝運動を推進しました。

戦後は、色鮮やかな釉薬を用いた重厚で変化に富んだ独自の作風を確立する一方、実用にとらわれない、自らの内面から湧き出る自由で独創的な造形表現を展開し、その卓抜した芸術性は、没後50年を超えてなお、国内外で高い評価を受けています。本展では、京都の旧宅であった河井寛次郎記念館の所蔵作品を中心に、本邦初公開となる山口大学の所蔵作品、京都国立近代美術館に収蔵されている川勝コレクションなどから、陶芸や木彫、書、調度類など約200点を紹介し、河井寛次郎の仕事の全貌とその深い精神世界を辿ります。

河井寛次郎「白地草花絵扁壺」1939年 河井寛次郎記念館



やきものを分析する -装飾編-

平成30年12月22日(土)～平成31年2月24日(日)

やきものは、人類が化学変化を意識的に応用し、生みだされたといわれていますが、現在に至るまでには、かたちや装飾などにさまざまな技術が加えられてきました。本展は、一昨年の一釉薬編に続く第2弾として、うつわに施された装飾の歴史や特徴を、当館の古陶磁および現代陶芸コレクションを通してご紹介いたします。

東山「染付祥瑞写山水図水指」江戸時代後期 兵庫陶芸美術館



瀬戸ノベルティの魅力 -世界に愛されたやきものたち-

平成31年3月16日(土)～6月2日(日)

やきもので作られた磁器人形などの置物の装飾品は、瀬戸(愛知県)で「ノベルティ」と呼ばれています。多くは欧米をはじめとした海外に輸出され、戦後に瀬戸の一大産業のひとつとして発展していきました。本展では色鮮やかで多彩なデザインの作品を紹介し、その愛らしい魅力に迫ります。

●テーマ展のご案内

内田鋼一展 -時代をデザインする-

平成30年12月22日(土)～平成31年2月24日(日)

世界の窯業地で身につけた陶技を駆使しながら、生活に用いる器から、インテリア、建築とのコラボレーションまで、その多彩な活動で注目を集める内田鋼一。本展では、自作に加え、その「形の素」ともいえる収集作品にも注目し、独自の美意識に迫ります。



内田鋼一「加彩大壺」2010年 個人蔵
写真：瀧忠之

丹波焼の世界 season2

平成30年5月23日(水)～平成31年3月24日(日)
(平成31年3月4日(月)～3月15日(金)は休館)
season3 3月27日(水)～

本年3月に県指定重要文化財に指定された、当館の田中寛コレクションの丹波焼を中心に、800年を超える歴史を育くみ、日本遺産「日本六古窯」の一つにも数えられる丹波焼を通観し、現代まで続くその魅力に迫ります。



丹波「壺・銘 狸太」鎌倉時代
兵庫陶芸美術館
(田中寛コレクション/県指定)

兵庫陶芸美術館 〒669-2135 篠山市今田町上立杭4 電話：079-597-3961 (代表) HP <http://www.mcart.jp>

イベント案内

◆第41回 丹波焼陶器まつり

「器(い)ちご(い)ちえ」～人と器の縁結び～」をテーマに、丹波焼の魅力あふれる多彩なイベントが催されます。

●期間 10月20日(土)～21日(日) 午前9時～午後5時まで
●兵庫陶芸美術館

・期間中特別割引料金にて観覧できます。各日特別展観覧者先着100名に丹波焼小皿をプレゼント
・第2回ハンドメイドクラフトフェス
・「出会い・体験」…陶芸、木工、ガラス、手織り、簪細工、こけ玉楽器など様々な素材を活かした手づくり作品が並びます。体験教室も開催!

「Liveを愛しむ」…里を一望するウッドデッキを舞台に音楽Liveをお楽しみください。
「味わう」…レストラン「虚空蔵」での地域の食材を活かしたランチのほかカレー、たこ焼、焼き栗などの屋台も並びます。

●陶の郷
・丹波焼「うつわdeレシビ52選」
・「丹波大茶会」日本酒田楽「丹波のまろみ」と器のマルシェ
・「うまいもん大集合」ひょうこの物産コーナー
・「チャリティーオークション」「チャリティーガチャポン」なども催されます。

●今田支所周辺
・窯元ごとにテントが並びます。(陶器市)
・黒枝豆、丹波栗、新鮮野菜の販売や飲食コーナーもあります。

●窯元周辺
・上立杭旧公会堂のギャラリー「24マス」では「マグカップ・カップ展」を開催。展示販売します。

▼問合せ
丹波立杭陶磁器協同組合(陶の郷) 電話：079-597-2034
会場付近は交通規制があります。各所に設置の駐車場をご利用ください。

各会場への移動は巡回バス(無料)をご利用下さい。
電車をご利用の方は
JR相野駅⇔陶の郷 臨時シャトルバス(有料)運行

周辺の施設
会期中は陶器市会場から温泉までマイクロバス(無料)で送迎致します。また、お食事処、黒大豆枝豆や米など農産物の販売もあります。

◆日本遺産六古窯 備前焼・丹波焼 伝統工芸士合同展

●期間 11月3日(土)～11日(日)
●会場 立杭陶の郷アートギャラリー丹波
伝統工芸士 備前13名 丹波10名の作品が集結します!

プレゼントのお知らせ

兵庫陶芸美術館・陶の郷・こんだ薬師温泉の招待券を3施設セットでペア5組10名様にプレゼント。

●応募方法
ハガキに 〒住所・氏名・年齢・本紙の入手場所(〇〇美術館など)・ご意見、ご感想をご記入の上、下記の宛先までお送りください。

●締め切り
平成31年2月末日消印有効。応募多数の場合は抽選になります。

●宛先
〒669-2135
篠山市今田町上立杭4
兵庫陶芸美術館内「陶芸文化プロデューサー」宛

なお、ご応募頂いた方の個人情報は当選者への発送、本紙企画の参考以外の目的には使用いたしません。また当選発表は発送をもってかえさせていただきます。

丹波伝統工芸公園

立杭 陶の郷

〒669-2135 兵庫県篠山市今田町上立杭3
TEL.079-597-2034 FAX.079-597-3232
URL.<http://www.tanbayaki.com/>
【入園料】高校生以上 200円
小中学生 50円

年中
無休

開園時間

4月～9月 AM10:00～PM6:00
10月～3月 AM10:00～PM5:00

但し、年末年始は除く

丹波焼を『見る・作る・楽しむ』

窯元横丁

丹波焼の51軒の窯元の作品を買うことが出来る「窯元横丁」。どこか懐かしくあたたかな空間で、ゆったりと買い物をお楽しみいただけます。伝統的な丹波焼からアーティストックな作品まで、さまざまなやきものが展示販売されています。一つひとつの作品をじっくり手にとりながら、散歩気分で歩いてみてください。見ているだけでも楽しくなりますよ。

陶芸教室

丹波焼の郷で、陶芸体験してみませんか。小さなお子様からどなたでも、手びねり(粘土細工)や絵付け体験に挑戦していただけます。釉薬をかけて焼き上げてから、ご自宅まで宅配便で発送いたします。あなただけのオリジナルやきものをつくってみるのも楽しいですよ。